



地域課(交番)主任として

警視庁小松川警察署地域課主任
(平成22年入庁)

～住民に身近な存在として～

私は現在、警視庁小松川警察署の交番で勤務しています。交番の勤務は、警察官として住民の方々と接する機会が最も多く、その勤務員は、「一番身近なお巡りさん」と言えます。制服を着て管内を巡回していると、多くの住民の方々から「ご苦労様。いつもありがとう」という声をかけられます。不審者に対する職務質問、暴行事件や交通事故の現場臨場等、多くの事案への対応に追われる日々が続きますが、温かい励ましの声を聞くと仕事の疲れも忘れてしまいます。

交番勤務で最も心に残っているのは、公務執行妨害事件を取り扱ったときの出来事です。現場臨場した時、事件現場に居合わせた小学生が泣いていたので不安を取り除こうと優しく声をかけたところ、小学生がその場で私の似顔絵と感謝の手紙を書いてくれたのです。このときは、本当に警察官という道を選んでよかったと実感しました。

Ⅱ種採用警察官は、このように現場を経験する機会にも恵まれています。国民の安全な暮らし、治安の維持のために働くこの仕事に少しでも興味を持った方は、是非警察庁の門を叩いてみてください。皆さんの入庁をお待ちしています。

刑事課主任として

警視庁福生警察署刑事課主任
(平成21年入庁)

～犯人検挙への執念を持って～

私は、現在、警視庁福生警察署刑事課盗犯捜査係で勤務し、侵入盗、ひったくり等盗犯事件の捜査を担当しています。盗犯捜査では、盗まれた被害品の処分先を捜したり、犯罪の手口を分析するなど、地道な捜査の積み重ねが犯人逮捕につながる近道です。刑事と言えば、華やかな仕事を想像する方もいると思いますが、第一線では地道に足を使って犯人逮捕の手がかりを追い求めています。

現在は、福生警察署管内で連続して発生している侵入盗の事件を捜査しています。犯行現場に残された犯人の痕跡はわずかですが、その手がかりを基に犯罪の検挙に向けて昼夜を問わず捜査に邁進しています。盗犯事件は一朝一夕で解決できるものではありません。身を粉にして地道な捜査を行うことによって解決できるものです。苦労が多いだけに、被疑者を検挙した時の充実感は、これまでの人生で経験したことがないほど大きなものです。

このように、Ⅱ種採用警察官は、現場で勤務する機会に恵まれています。現場での勤務を経験し、誰もが安心して暮らせる社会を実現するという警察の仕事への誇りを再確認しています。

このパンフレットを手にとった方は、警察の仕事に興味を持っているのではないかと思います。是非、警察庁の門を叩いてみてください。

